



荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 鎌田博一
編集責任者 佐藤敏幸

No.1853

2021年

5月5日

国労加入を 大胆に訴えよう

倍の四二票を獲得したことは、今までは違う運転職場の雰囲気と国労に期待する声が少ないからとあることを表した。現在組合員の半数以上がエルダー組合員となったことを踏まえ、労働条件や労働環境の改善の取り組みが求められている。

二つ目に二〇二二年春闘の取り組みについて。会社は社員と家族の幸福を目指すとしているが、減収を理由に昨年夏冬の一時金を大幅にカットして社員家族にそのしわ寄せを押し付け、株主には配当を行って

三つ目に政治闘争強化の闘い。防衛予算の概算要求では五、四兆円を計上して、空母やステルス戦闘機、長距離ミサイルの配備などを狙っている。沖縄県民の民意を踏みにじり、沖縄辺野古新基地移転に固辞して、戦争が出来る国作りを目指す菅自公政権を倒して、政権交代を勝ち取らなければならぬ。

南澤 順一 (中央支部・東京工務事務所)
昨年四月、今年一月と緊急事態宣言が二度にわたり発出され、私の職場でもテレワークや時差出勤などが行われ、感染不安、生活不安を抱えながらの職場環境の中で業務をこなしている。職場で働く上で不安に思うことを出し合い、「職場で申し入れる」「会社と話す」など、労働運動の原点に帰った私たちの生活実態に基づいた運動を作ることが重要だ。

次に職場代表者選挙について。会社側が設けてきた選挙管理事務局、投票方法、信任票の扱いについて申し入れ、解明してきた。結果は職場代表者を勝ち取ることは出来なかったが、本所やある工区では組合員数に上回る得票数を得た。新年度の職場代表者選挙の実施についても、引き続き、民主的公平性、透明性のある選挙の実施に向けて要求し続けていく。

最後にエルダー制度の現状について。会社は「原則、出向は変えない」と言いつつ、今年度については労組問わず本エルダーを進めてきた。対象の組合員は

六名で、六名とも前年一二月までに内示、提示がされた。関連会社への出向者一名、あとは本体エルダーということとで今と同じ職場に五名が内示された。今後も引き続き、本人希望がきちんと受け入れられるようにエルダー労働条件改善とともに会社に要求し続けていきたい。

宮川 隆司 (神奈川地区本部・鶴見駅) 地区本部営業協議会で事務局長をやっている。地区本部の状況については営業と運車、施設、電気職協の四職協で行なっているが、毎年職場改善要求を会社に提出して団体交渉に取り組んでいる。定期委員会を開催し、職場の問題のつき合わせは行なえた。一昨年、台風の時



神奈川地区本部でも半数以上が再雇用組合員という状況。あと三年で国鉄時代の先輩達が定年を迎える。神奈川地区本部ではJESSの職場で組合の加入があるが、社員の加入は未だ厳しく、なかなか進んでいないという状況。神奈川では数年かけて分会の整理、統合も進めてきた。今年地区本部では職協についても見直しを考えていこうということと共話を進めている。

早川 義貴 (大井工場支部・東京総合車両センター) 春闘について。今年度のJR東日本の赤字額は四一八〇億円と言われ、大変厳しい状況ではあるがJR東日本は

第110回拡大地方委員会 発言(書面発言)録

2/13 催開

坂本 和彦

(自動車支部・JRバス関東東京支店)

今年度はコロナの影響で分会活動ができない状況だった。組織拡大が急務であることと意識しているが、集まる事が出来なかった。仕事面でも乗客の減少による高速バスの運休が発生し仕事が減少し二〇二〇年四月の緊急事態宣言から急激に航路数が減り、自宅待機となっていた。一二月頃になると自宅待機も減り、乗務ができるようになってきたが、一月の緊急事態宣言と再

発令により、運休便も再度発生している。この状況なので他業種への出向の打診もあった。二月からは土浦支店乗務員五名が私鉄バス会社へ出向。東京支店においては運送会社へ出向募集が呼びかけられている。次に組織拡大について。自動車支部では

組合員数がとても厳しい状況である。東日本に籍がある出向社員は今年で全ての皆さんがエルダー社員になり、現役と言われるのは自分と五八歳の仲間の二人になる。組織拡大が急務の課題ではあるが、現実も理解してもらいながら国労運動を継承、発展させるための運動がとても重要なので継続していきたい。

須藤 忠 (上野支部・松戸車両センター) このコロナ禍における減収減益の状況を強く押し出し、昨年の年末手当を大幅に引



安達 春彦 (新橋支部・新宿駅) 新宿駅での職場代表者選挙について報告する。立候補者は組合未加入、他労

き下げ、今年の昇給についても抑え込もうとしている。職場ではこの間、会社役員の数、その報酬や株主配当が増え続けたことに不満の声が出られ、今こそJR発足以来三三年間貯め込んだ内部留保を社員へ還元するべきである。常磐緩行線ワンマン運転化の計画により、233系の車両の改造が進められ、ワンマン運転の設備や機能の検査、点検が求められている。

次に運転無事故表彰について。無事故継続期間の計算方法が何年も前から違っていた問題である。所長にこの間違いを指摘して訂正を求めると、現在の所長が赴任してきた時からの訂正は是正すると回答したが、その前についても遡って是正されるべきと考えている。

次にエルダー制度について。会社が示しているエルダー制度とかけ離れた状況。会社に対する六五歳定年制の導入とエルダー制度改善の取り組みの強化が急務だ。最後に、新型コロナウイルスの感染が拡大し緊急事態宣言が延長され、多くの国民が苦しんでいる。菅内閣では国民の命と暮らしは守れない。今年衆議院選挙が行われる。地本としても市民と野党の共闘体制の強化に向けて取り組むことを要請する。

大野 広志 (八王子地区本部・立川運転区) 一つ目に組織強化・拡大と労働条件改善の闘い。私の職場では、他労組の分裂で昨年初めて職場代表者選挙が行なわれた。分会長が立候補して選挙。労働者の声を聞き、三六協定の締結方など具体的な主張を業務掲示板に張り出して対話をしながら支持を広げる取り組みを行なったが、代表には至らなかった。しかし、国労組合員の二



大野 広志 (八王子地区本部・立川運転区) 一つ目に組織強化・拡大と労働条件改善の闘い。私の職場では、他労組の分裂で昨年初めて職場代表者選挙が行なわれた。分会長が立候補して選挙。労働者の声を聞き、三六協定の締結方など具体的な主張を業務掲示板に張り出して対話をしながら支持を広げる取り組みを行なったが、代表には至らなかった。しかし、国労組合員の二

